

第2次千葉市文化芸術振興計画 事業視察シート

視察者

桜井 まどか

基本施策名	基本施策1_文化芸術に親しむ市民の裾野を「広げる」 (2)参加・体験活動の推進	
事業名	こどもまつり「美浜こどもまつり2020 キャラメルマシンのスーパーサイエンスマジックショー」	
実施主体	指定管理者	(名称) ちばアートウインド運営企業体
会場	美浜文化ホール2Fメインホール	
日時	令和2年8月18日(火) 11時00分 ~	

【チェックポイント】 ※以下の点に着目して評価してください。

評価指標2 戦略的な視点・基本姿勢との適合	
(1)市民主体	<input type="checkbox"/> 妥当 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ妥当 <input type="checkbox"/> 工夫により改善 <input type="checkbox"/> 見直し (評価の理由) 参加者親子は、生活に繋がる科学をテーマにした「マジック」に親しみやすさとエンターテインメント性を感じて気持ちを高揚させ、コロナ対策とマナーを守りながら自発的に楽しんでいる様子が伺われた。 閉塞感のある夏休みに印象に残る時間で、親子間のコミュニケーションに新たな切り口と広がりを与えたと言える。観覧料は親子3名で1500円と妥当で継続的な参加が見込まれ、ライフスタイルの一端としても取り入れやすい。開催テーマは文系・理系という枠に偏らず、総合的な教育・親子で共に学びのあるテーマと内容のため、芸術文化のステージ内容が生活の一部にも感じられた。ビニールに鉛筆を刺すとどうなる？ドライアイスの煙を丸く形成させる不思議な箱など。幼い頃の文化芸術体験による驚きや楽しさは記憶に残り、生涯を通じた助けになる。 次世代家族にも同様のリターンが起こることが期待され、地域への愛着にも繋がる。 文化芸術イベントの効果はロングタームの中でも考えられるべき問題でもあるが、今回のイベントは、幼い頃から文化ホールへ足を運ぶことを促し、文化芸術への敷居を低くし、日常に文化芸術を感じる事が当たり前な生活、ライフスタイルへと繋がっていると感じた。 実施日は8月中旬の夏休み中盤であったが、コロナ禍において千葉市内の小学校は夏休みの最終週のイベントとなった。参加は、親1名に子供2名がほとんどで、手の空いているどちらかの親が、子を外に連れ出す良い機会としているように見受けられた。連日の猛暑日にて高齢の祖父母の姿は一切なく、暑さ対策と冷房対策の装いや水筒持参など各自出来ていた。席の配置は家族が分散なく、きちんと収まるようになっていた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当 <input type="checkbox"/> ほぼ妥当 <input type="checkbox"/> 工夫により改善 <input type="checkbox"/> 見直し (評価の理由) 幼児向けクッションが着席時に職員によって迅速に設置、場内が明るいままで眠気を誘うことなく保安上も適切だった。 「科学」の実験を彷彿とさせるパフォーマンスで、科学分野に対する構えをなくし、日常生活上で起こり得る疑問がテーマのため、子どもたちの好奇心に訴えかける内容だった。小学校低学年・未就学児・幼児の割合は(3:6:1)、6歳児が主流で活発な挙手、リアクションが見られ、会場一体のワークショップの様相もあった。 生活の中で実験可能な内容は帰宅後に再度試すことが可能で、さらに調べてみれば学校用の自由研究のテーマにもなり得る。イベント当日限りのマジックではなく、後日に活かせる知識で学びのある時間だった。 前半はコントで観覧者の気持ちを引き寄せ、後半は本題のスーパーサイエンスマジックと、飽きさせない構成で、登場から要所ごとのBGMは誰もが知るテンポの良い選曲で、拍手や手拍子のタイミングを子どもたちから上手く導き出し、言葉の通じない海外で受賞歴のあるパフォーマーの経験値の高さを感じた。

(3)領域の広がり	<input type="checkbox"/> 妥当 <input type="checkbox"/> ほぼ妥当 <input checked="" type="checkbox"/> 工夫により改善 <input type="checkbox"/> 見直し
	<p>(評価の理由)</p> <p>当日は、出演者に対しての学習・認知度を高めることがなされていない。1Fの区役所側から階段を上がる壁に埋め込みのモニターでキャラメルマシンのYouTube動画が流れていたが、モニター自体が目立たず、開場時にはスイッチが入っていなかった。開演前には2F受付の背景や、開場入り口で可動型の大型モニターでマジックの様子や受賞シーンなどを流し、出演者への関心を高めて雰囲気も盛り上げるべき。舞台上の2人の表情は13列目からでは分かりづらく、マジックがバレない程度に、モニターで追うLIVE画像も欲しかった。</p> <p>出演者当人によるSNSも最新情報が少なく、今回の舞台裏や千葉市に対するメッセージなどが投稿されるとファン心理も働く。同じ理由で、全席を背景にしたパフォーマーとの写真撮影もすべき(全員マスク着用・着席なので問題ないと思う)。</p> <p>出演者選定の時点で、地域を巻き込むよう動いてもらう提案も必要で、ここまでが予算に含まれているのが望ましい。結果、参加者自身もSNS発信をや口コミしやすくなり、領域の広がりにも繋がる。</p>

その他 (評価すべき点・改善すべき点・気づいた点など)
<p>※評価指標1(3)他の基本施策への波及に該当する取組が見受けられた場合はこちらに記載してください。</p> <p>コロナ対策および猛暑対策として、入場・退場時の職員による誘導と動線作りにはアイコンタクトもあり、すべての親子に対して声掛けがある丁寧な対応だった。職員の数は一見して多く、「こどもまつり」として最善を尽くす姿勢に安心感が持てた。参加親子は閉会後に滞留することなく散会も速やかで、イベントの基本でもある'主催・参加両者の協力体制'が感じられた。</p> <p>1席おきに有名作曲家の顔のイラストを貼って使用不可とする点はユニークで、文化施設らしさがある。出演のキャラメルマシーンも、「舞台からは満席に見える！」と冒頭で語っており、コロナ禍に置いて演じる側のモチベーション・アップに繋がり、主催側からのおもてなし効果となる。</p> <p>会場は黒を基調に、シートデザインやクッション性は妥当だが、横幅が大人女性には狭い(160cm・Mサイズ相当)。肘掛けに腕を置くと隣と接触、リラックスできず、男性は窮屈と思う。年齢や体型、健康状態に沿うように若干のリクライニングも可能であるべき。</p>